

令和 2 年 3 月 11 日

神戸大学長

武田 廣 殿

写) 神戸大学海事科学研究科長・海事科学部長

内田 誠 殿

神戸大学海事科学部 同窓会

海神会 会長 片岡 徹

### 新造船の船名に関する要望書

平素は、神戸大学海事科学部同窓会 海神会の活動にご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

さて、海神会は掲題につきまして、去る 3 月 2 日に総合運営委員会を開催致し、本要望書を提出させていただき、事を決議致しました。

母校の歴史を振り返れば、大正 6(1917)年に川崎芳太郎氏が父川崎正蔵氏の『西洋船舶の導入と近代的な海技者育成が必要である』との遺志を継ぎ、堺より明石までの大阪湾沿岸を走破調査の上、ここ兵庫県武庫郡本荘村深江の地に、私立川崎商船学校を設立したのがその始まりとされております。

その後、大正 9 年(1920)8 月に本校は国家に献納され神戸高等商船学校が誕生し、東京・越中島の東京商船高等学校と共に幾多の高級船員、海事従事者を世に輩出し、日本の国際経済活動を海上物流面で支えてきました。戦中、戦後の混乱期を経て、議員立法により昭和 27(1952)年 5 月に神戸商船大学がこの深江の地に設立され、さらに平成 15(2003)年 10 月に神戸大学との大学統合により、神戸大学海事科学部として現在に至り、平成 29(2017)年には創基 100 周年を迎えております。

歴代『深江丸』の起源は、発祥の地である深江が礎となり、神戸高等商船学校が学内での汽艇教育の充実を図る為、昭和 2(1927)年 1 月に建造したのが始まりであり、爾来その精神は脈々と受け継がれ、昭和 27(1952)年 5 月この地に神戸商船大学が開学されると、2 代目が昭和 33(1958)年 3 月学内練習船

として竣工、また4代目は高度知能化練習船として昭和62(1987)年12月に竣工し、現在に至っております。

開学以来、歴代『深江丸』は、深江のポンドを拠点とし現在まで、海事教育の普及、学術研究等に幅広く貢献をしてきました。また、神戸・東京両商船大学時代から、越中島と言えば東京商船大学、深江と言えば神戸商船大学と、学舎のある地名として親しまれてきました。古くから日本では、川、山、地名が船名に用いられており、特に公船については、地名の採用が多く、『深江丸』も創始者に敬意を表し、学舎の地である深江から名付けられたものと思料されます。

いよいよ、令和3(2021)年4月から新学部(仮称)海洋政策科学部として新たな船出をいたしますが、神戸大学が運用している現在の『深江丸』は、海底資源探査航海を通して、鉱物資源探査や災害の予知など国益と国土強靱化に係る質の高い研究成果の創出に活用されています。新造船の船名を新しくする選択肢もありますが、研究の継続性を『深江丸』を継承することによって世界に印象付けるという方が望ましいように思え、新造船にはより充実した海事教育と学術研究はもとより、災害時の地域貢献と幅広い活躍を願うところであります。

海神会は、新造船が深江のポンドを拠点とし、歴史的背景から代々受け継がれてきたその船名を継承し、後世に引き継ぐ事は非常に大事な事と捉え、また、これから入学する学生には心の礎になることを願い、新造船の船名の候補として『深江丸』を考慮下さるよう要望致します。

なお、昨年11月30日、高架に伴い新装なった阪神深江駅舎は、地域のシンボルとして神戸高等商船学校の練習船“進徳丸”と“深江の浜”をイメージしたデザインになっていることも申し添えさせていただきます。

以上